

憲法しんぶん 速報版
発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）
Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2023年8月10日(木)
NO. 1399号
本号3頁

保険証廃止の方針維持表明に厳しい批判

岸田首相が4日、来年秋に健康保険証を廃止しマイナンバーカードに一本化する方針を当面は維持する考えを示し、廃止を延期するかどうかの判断を先送りし、今年秋までに行うマイナ問題の点検作業を見定めた上で「さらなる期間が必要と判断される場合には、廃止時期の見直しも含め適切に対応する」と述べました。そして、不安の払拭策に関し、保険証代わりとなる「資格確認書」の有効期限は、5年を超えない期間で自治体や健康保険組合が決めると説明。カードに保険証機能を備えたマイナ保険証を持たない人全員に発行し、きめ細かい対応を徹底すると述べました。

これに対して、保団連やマスコミ等からも厳しい批判が相次いでいます。

保団連会長警鐘「保険証廃止を強行すれば閉院ラッシュ、地域医療は崩壊」

保険証廃止についてはメディアの批判的報道も盛んですが、保団連は以前から警鐘を鳴らしてきました。その保団連会長の住江憲勇氏は、次のように今回の方針を厳しく批判しています。

◆今年4月からのオンライン資格確認義務化の進め方は極めて強引でした。昨年6月に義務化方針を閣議決定し、ろくな審議もせずに3カ月後には省令を発令。昨年8月の厚労省の説明会で、保険局の水谷忠由医療介護連携政策課長は、義務化に応じない医療機関について「保険医療機関・薬局の指定の取り消し事由となり得る」と恫喝までしました。こうして環境を整え、同10月に河野デジタル担当相が保険証の廃止を表明したのです。

保団連の昨年10月のアンケートによると、セキュリティへの懸念や経済的負担などの理由で15%が「対応できない」と答え、10%が閉院を検討すると回答しました。資格確認システムの導入という、医療とは無関係な理由から病院を閉じるのは、医療従事者にとって忸怩(じぐじ)たる思いだと思います。

全国の地方厚生局に提出された保険医療機関の廃止数を見ると、今年4月は約1100件に上っています。少なくとも昨年5月以降で最多となっています。4月からのオンライン義務化の影響も考えられます。

全国には中山間地域があります。限界集落とならず、持ちこたえているケースはかろうじて医療機関が存在しています。そうした地域で唯一の医療機関が閉院してしまったら、住民の医療はどうなるのか。地域医療への影響は今のところ、顕在化していません。しかし、政府が保険証の廃止方針を貫けば、判断を迷っている医療機関が閉院を決めかねない。閉院予定の医療機関はオンライン資格確認を導入せず、来年9月までは続けられるが、その後はない。来年秋に向けてさらなる閉院ラッシュが起きてもおかしくありません。

与党からも延期すべきとの声が出ていますが、当面は延期でいいとしても、撤回に追い込むことが重要です。延期したところで問題が先送りされるだけです。この先、マイナ保険証の登録が飛躍的に伸びるとも思えず、数千万人がマイナ保険証を持たない状況は続きます。また、廃止時期を後ろ倒しにしても、先に挙げた3つの必発トラブルがなくなるわけではありません。これまでと同様に、マイナ保険証に一本化するスキームの中で解決しようとするれば、延期した期間にトラブルが続くだけなのです。保険証を存続させれば、一気に解決する話です。

来秋の保険証廃止について反対の世論は7割を超えていますが、政府は鈍感です。例えば、河野デジタル担当相は自主返納について「微々たる数」だと切り捨てました。信頼されていない事態に向き合おうとしていません。保険証廃止を政府は譲らない構えですが、国民の運動に加え、メディアの報道もあり、廃止についての危機意識は共有できていると思います。

「医療のデジタル化のためには、多少のリスクやデメリットがあっても立ち止まらずに推し進めるべきだ」と言う人がいますが、軽い発言です。マイナ保険証では、機微に富む情報がずさんに扱われ、地域医療の崩壊にもつながりかねない。保険証廃止の撤回に向けて引き続き奮闘します。

マスコミからも厳しい批判続く

多くの方から保険証廃止維持の方針に、厳しい批判が続いています。俳優の石原良純氏は、資格確認書をつくることについて「分かんないですけど、マイナンバーカードができて、行政の省力化みたいなことも進むわけでしょう。この資格確認書があるとまた手間が増えるだけだし」と言い、資格確認書の発行コストの試算として、会社員などの被用者保険で、年間241億5900万円かかることに言及し「お金というか、またこれをやったら、またそこでトラブルが起こって同じことなんじゃないかなという気がします。だって2回、移行するわけでしょう、保険証、資格確認書、そして、いずれマイナンバーカード。面倒くさい」と自身の見解を話しました。

テレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」で、羽鳥氏は資格確認書の発行コストの試算として、会社員などの被用者保険で、年間241億5900万円かかると伝え、「資格確認書があるのかどうか。移行の流れはいいと思うんですよ。やり方がどうなのかなと。今の保険証のままでいいんじゃないかなと思うんですけど」と疑問を呈し、「移行の流れは賛否両論ありますけど、200億円かけて現行の保険証とほぼ変わらないカードをまたつくる…」と首をかしげました。

共産党の小池書記局長は、「マイナンバーカードの暴走が破綻し、迷走が始まった」と厳しく批判しました。そして、どの世論調査でも7割を超える国民が健康保険証廃止の「延期・撤回」を望んでいると指摘し、「それにもかかわらず既定路線にしがみつき廃止を強行する。岸田文雄首相に『聞く力』はないということが明瞭になった」と批判。「そもそもなぜここまで保険証廃止にしがみつくのか」と指摘。先の国会で自民党、公明党、日本維新の会、国民民主党が問題を指摘されながらも保険証廃止法案を強行したとして、「廃止の延期・撤回には法改正が必要だ。責任追及を恐れているのではないかと批判しました。

また、経団連がマイナンバーカードの一体化と保険証廃止を求めてきたとして、「国民の暮らしよりも、政党のメンツと党利党略、財界の要求を優先したと言われても仕方がない」と批判。「改めて、来年秋の保険証廃止方針を撤回し、国民と医療現場の声に従って健康保険証を存続させるべきだ」と述べました。

総点検の中間報告 マイナ保険証紐づけミス計8441件に

政府は8日、首相官邸で「マイナンバー情報総点検本部」を開き、一連のトラブルに関する中間報告を公表しました。マイナンバーカードと健康保険証を一体化した「マイナ保険証」で新たに1069件のひも付けの誤りが見つかり、5月までに見つかった7372件と合わせると8441件に上りました。また、公務員の共済年金で紐づけミスが118件見つかったほか、障害者手帳や労災年金に関わる誤りも報告されました。改めに、制度の根幹を揺るがす深刻なものであることが明らかになりました。政府は延べ約5000機関に11月末までに個別のデータを点検するよう求めました。

岸田内閣の支持率 先月から3.6ポイント下落 30%台は5か月ぶり JNN世論調査

岸田内閣の支持率が先月から3.6ポイント下落し、37.1%であることが最新のJNNの世論調査で分かりました。岸田内閣を支持できるという人は、先月の調査から3.6ポイント下落し、37.1%でした。一方、支持できないという人は2.3ポイント上昇し、58.7%でした。

今の健康保険証を来年の秋に廃止し、マイナンバーカードと一体化する政府方針については、「延期」または「撤回」すべきが合わせて69%でした。総理の説明については「あまり」「全く」を合わせ「理解できない」が60%と半数を超えています。

また、政府は相次ぐトラブルを受け、マイナンバー情報の誤りの総点検を行っていますが、総点検ではトラブルが「解決しない」と考える人が82%にのぼっています。

東京電力・福島第一原発の処理水の海洋放出について。処理水をこの夏頃に海洋放出する政府方針については、賛成が50%、反対が35%でした。また、この方針に対する政府の説明については、「十分」が18%、「不十分」が72%でした。

武器輸出を制限する「防衛装備移転三原則」については、他国への殺傷能力がある武器の提供に向け「改めるべき」が35%、「改めるべきではない」が53%でした。

岸田総理にはいつまで総理を続けて欲しいか聞いたところ、来年9月の自民党総裁任期までが57%と最も高い結果となりました。

原水爆禁止世界大会 ヒロシマデー集会

広島に原爆が投下されてから78年となった6日、原水爆禁止2023年世界大会ヒロシマデー集会が広島市内で開かれました。すべての国の指導者に核兵器廃絶にむけた緊急の行動を訴える「広島からすべての国の政府への手紙」を採択。広島市主催の平和記念式典では、松井一実市長が「世界中の指導者は、核抑止論は破綻しているということ直視し、私たちを厳しい現実から理想へと導くための具体的な取り組みを早急に始める必要がある」として、日本政府に一刻も早く核兵器禁止条約の締約国となるよう求めました。

こども代表 平和への誓い

みなさんにとって「平和」とは何ですか。

争いや戦争がないこと。

差別をせず、違いを認め合うこと。

悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。

身近なところにも、たくさんの平和があります。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。

耳をさくような爆音、肌が焼けるほどの熱。

皮膚が垂れ下がり、血だらけとなって川面に浮かぶ死体。

子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて。」と、叫び続ける母親。

たった一発の爆弾により、一瞬にして広島のみちは破壊され、悲しみで埋め尽くされました。

「なぜ、自分は生き残ったのか。」

仲間を失った私の曾祖父は、そう言って自分を責めました。

原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、

生きていくことへの苦しみを与え続けたのです。

あれから78年経ちました。

今の広島は緑豊かで笑顔あふれるまちとなりました。

「生き残ってくれてありがとう」

命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。

私たちにもできることがあります。

自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。

友だちのよいところを見つけること。

みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。

今、平和への思いを一つにするときです。

被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。

身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。

誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。



2023年8月6日

こども代表 広島市立牛田小学校6年 勝岡 英玲奈 広島市立五日市東小学校6年 米廣 朋留